

国連軍の心理戦から見た朝鮮戦争におけるラジオ・プロパガンダ

土屋礼子

本稿は、朝鮮戦争において、どのようにラジオがプロパガンダに用いられ、またその内容が分析されたのか、1950 年から 1952 年までの期間のラジオ放送の内容について、朝鮮戦争において国連軍の中心となった米軍の心理戦関係の文書を用いて明らかにする。また、北朝鮮や中国などのラジオ放送の傍受と内容の分析が行われ、共産側の意図と情報を探った。一方、日本の講和条約が成立すると、米軍は国連軍でのプロパガンダでは日本の存在を消したのと対照的に、日本人の好意を持続させる宣伝・広報の方針を、心理戦の一環として議論していた。